



# ご存知ですか？ 多文化共生



■問い合わせ先 市民協働推進課 ☎(32)8887

多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」（総務省：多文化共生の推進に関する研究会報告書より）をいいます。

ここ数年、下野市で暮らす外国籍の方が多くなっています。皆さんも、職場や学校で外国籍の方と接する機会が増えているのではないのでしょうか。

ここで、想像してみてください。目の前に、自分とは違う国籍の方がいるとします。自分には、その人が話す言語を理解することができません。

にもかかわらず、その人が自分に話しかけてきたら、どのような気持ちになるのでしょうか？



「何語なんだろう？」  
「言っていることが何も分からない……」  
「理解したいけれど、どうしたらいいんだろう」  
「困ったな、いつまで続くんだろう」  
こんな風に困ったり、不安になったりするのはないのでしょうか。



相手の表情を見ても感情を予想できなかつたら、ますます不安は大きくなるはずですよ。

日本で生活している外国籍の方の中には、そのような不安を抱えて生活している方がいるのです。日本語を十分に理解できなかったり、自分の国の文化と日本の文化の違いに戸惑ったり、地域のルールをよく知らなかったりするために、困っているケースがあります。

しかし、たとえ国籍が異なっても、私たちが同じ地域に暮らす市民であることに変わりはありません。だからこそ、お互いを知り、違いを認め合いながら、共に生きていくことが重要になります。

そんなとき、コミュニケーションを取る助けになるのが「やさしい日本語」です。少し工夫することで、相手を知るきっかけになるかも知れません。

やさしい日本語を具体的に考えてみましょう

## Q いつ日本に来たのか質問したいとき

A1 「日本にいらっしゃったのはいつですか？」

A2 「日本に来たのはいつですか？」

A1は丁寧な言葉遣いですが、相手の日本語レベルによっては通じにくい可能性があります。A2のように、丁寧さよりも簡潔さを優先することで通じることがあります。



## Q 道順を伝えるとき

A1 「ここをまっすぐ行って、最初の信号を右に曲がると、右手に市役所があります」

A2 「ここをまっすぐ行ってください。そして、最初の信号を右に曲がってください。市役所は右にあります」

A1とA2の違いは、1文に含まれる情報量です。1文で1情報を伝えるように区切って話すと伝わりやすいでしょう。

## Q 電話番号を伝えるとき

数字を口頭で伝えるよりも、紙に書いたほうが良いかもしれません。

相手の立場を思いやりながら、ゆっくり話すこと、簡潔に区切って話すこと、難しい言葉や専門的な言葉を日常生活の言葉に言い換えてみることも、多文化共生につながります。

まずは、身近なことから意識してみませんか？

少し想像力を働かせて接することで、外国籍の方の不安が減るかもしれません。それだけではなく、あなたにとっても新たな文化を知るきっかけになることでしょう。

同じ地域、同じ職場にいる私たちは、お互いに助け合う場面も出てくると思います。

まずは、笑顔で挨拶することから始めてみませんか？

しもつけワイズ

問4

カルシウムを摂ると効果的な食事のタイミングは？

①朝食

②昼食

③夕食

※(公財)栃木県国際交流協会のホームページでも紹介されています。

URL <http://tia21.or.jp/publications.html>